

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200620		
法人名	特定非営利活動法人 ASA陽		
事業所名	グループホームけやき荘(A棟)		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町小串郷1960		
自己評価作成日	平成26年11月21日	評価結果市町村受理日	平成27年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成26年12月25日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関わりを大事に常に行事等に参加したり、ホームの行事・慰問・消防訓練に参加している。</li> <li>・毎年の小学校・保育園の行事等にも参加している。(交流会・運動会)</li> </ul>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームでは、利用者が地域一員として、その人らしく暮らせるような支援を開設時より取組んでいる。取組みの一つとして、運営推進会議を通しての地域婦人会や保育園児の慰問、ピアノ演奏会や避難訓練があり、地域に開かれたホームとなっている。特に利用者が地域サロンやグランドゴルフに参加したり、老人会や旅行の誘いを受け外出をする等、利用者を主体とした地域密着型の支援に努めている。また、今年度は地域のニーズを基にユニットの増設に至り、地域及び行政との連携もより深まっている。新ユニットの開設にあたっては、職員・利用者の混乱を招かないよう、段階を経て受入れを行うなど工夫している。職員は管理者の介護に対する思いを共有し、利用者の思いを受け止め実現できるよう日々支援している。理念「住みなれた地域の中でゆっくりのんびり過ごせるようにお手伝いをさせていただきます。」に添った支援の中で、利用者同士の会話や笑顔があふれるホームである。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議等で常に理解して頂く様、新しく入った職員・パートの方にも共有して頂いている。(反省会をしながら説明している)	ホームは利用者が地域の一員として、その人らしく暮らし続けられるよう、理念に「住みなれた地域の中でゆっくりのんびり過ごせるように」という文言を入れている。様々な会議を通じて、管理者はホームにとっての地域の重要性を具体例をあげて説明し、個別支援として実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会(掃除・食事会・グランドゴルフ大会・運動会・夏祭り)などの行事等には常に参加させて頂いている(利用者、職員)	ホームは自治会に加入し、職員が地域行事を手伝ったり、地域清掃や総会には職員と利用者が参加している。地域住民の協力を得て、老人会や日帰り旅行、グランドゴルフに利用者は参加している。社協ふれあいまつりに利用者の作品を出品したり、園児との交流など様々な機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの状況などを知って頂く様、地域の方を招待して理解して頂いている。推進会議の他にホームの行事等に参加して頂く様、声かけしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの現状報告と利用者さんと共にふれあいの場を作り一緒にレクリエーション等に参加して頂き、気付いた事や意見・要望を聞き活用している。	2ヶ月に1度、規程メンバーで実施している。事業所の現状や行事報告、介護保険に関する質疑や地域の自然災害の危険性等話合っている。会議に合わせ、園児や婦人会、ピアノ演奏等の慰問や消防訓練を行っており、利用者と一緒に楽しみながら事業所を理解してもらう機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議やホームの勉強会に参加して頂き、介護計画について相談したり、新しい入所者さまについて相談しながら協力して頂いている。	運営推進会議の場で、健康維持や介護保険について話す機会がある。認定更新の手続きのほか、ユニット増設にあたって役場職員に相談したり、アドバイスを得るなど協力関係を築いている。職員は役場から案内のあるセミナーや研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には常に説明し拘束の無い様研修会に交代で参加して頂いているが、状況に応じ危険に共なう時には家族の方に相談し協力して頂く事もある。	職員は身体拘束ゼロ作戦推進会議という外部研修に参加している。職員は、合同スタッフ会議で研修報告を行っている。言葉遣いや精神的な拘束など周知している。日中玄関は開錠しており、帰宅願望から外出する利用者を職員は後ろからそっと見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、会議等に参加して頂き、状況説明会を行い、職員全員が理解して頂く様、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議などで行政との話し合いがある時は聞き、利用者側で関係している時は常に行政に対応して頂いている。職員の中では対応で理解している人もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にホームの契約説明を理解して頂く様、行っており、家族側が納得して頂いた上で入所頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、推進会議時に常に状況説明や要望、意見を聞いて対応している。	利用開始時に、相談窓口や意見箱の設置などホームの取組みを説明している。訪問時や電話を通じて、家族の意見を汲み上げている。ホームで利用者の表情が豊かになったことから、より多く利用者の姿を見たいといった家族の要望があり、了解のもとホーム便りに多くの写真を掲載した事例などがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、勉強会等で職員に意見状況を説明したり聞いたり出来る事は要望を取り入れている。	月2回のスタッフ会議や日々の申し送り時など、職員は意見や提案する場がある。また年2回全体会議を設けている。管理者が職員個別に意見や思いを聞く事もある。シフトや研修内容や職員の希望を募ったり、統一したケア実現に向けた支援内容を各職員が提案し、実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員の方々に給料面で説明したり、個別に意見を聞いたり、時間外は常に付ける様対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務外に個別に悩みを聞ける様、食事会に誘ったり勉強会、研修会には交代で行ける様、行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加したり、勉強会、他のホームの状況を聞いたり、見学に行ったり何かある時は相談したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅での過ごしされていた過程を知り、入居後、安心して生活をしていただく様、また不安を取り除ける様に本人から今の思いを聞く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に今後の要望、困っている事に耳を傾け、初期段階で何度か面接をして、不安を取り除き、安心していただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何度も相談を繰り返す中で、家族との信頼関係を築き、サービス提供をし、すべての家族のニーズに答える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「不安」等を取り除くだけではなく、「喜び」「楽しみ」等にも耳を傾け、又、その場を多くもてるようにセッティングし、声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員から家族に声かけをし、家族のイベント（法要、お墓参り等）などに本人が参加したり、誕生会等には家族に参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に定期的に出かけたり、友人、知人等にも面会に来て頂き、今までの関係を失う事がない様、支援をしている。	利用者の生活歴や馴染みの関係を利用者や家族から情報収集し、支援に活かしている。編み物を継続できるように毛糸を準備したり、地域のグランドゴルフに参加できるよう、地域メンバーに協力を得たりしている。家族や知人の訪問も多く、外出や外泊も希望に応じて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間や食事中に職員も一緒に多くの会話を持つように心がけている。トラブルが生じた際は、職員が間に入り、お互いのイメージが残らないように配慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族の方にも相談があれば応じたり、ホーム内での行事なども協力して頂いたり、参加されたりと継続性を保っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく、おだやかに楽しく暮らし続けられる様に、日々、利用者に寄り添い、希望、意向などをさりげなく聞き出す。	利用者の会話のテンポにあわせたり、居室等場所を変えるなど、職員は利用者一人ひとりと寄り添いながら会話している。普段はあまり表すことのない暮らし方の希望や不安など、会話の中から汲み上げている。気付きは申し送りノートや個別記録に記載し、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ふれてほしくないプライバシーには常に配慮をする。個性や価値観等を把握し、本人の求めるサービス利用をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々のリズムを把握し、朝の起床時間が遅い方にも、本人のその日の状態を全員で確認し、声かけする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で意見交換をし、モニタリングカンファレンスを行っている。又、家族・本人の意向を反映した計画をたてている。	初回の介護計画書はサマリーやアセスメントを基に、長期1年短期3ヶ月の目標を立て、家族からの要望を取り入れ作成している。作成した計画は本人・家族の同意を得ており、スタッフ会議で3ヶ月ごとにモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。面会時や電話等で家族からの同意を得て計画を実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアの記録(食事・水分量・排泄等その日の変化)を職員が共有し、介護計画の見直し・評価を実施する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況や要望に応じ、通院、外出(ドライブ・帰宅)などに柔軟に支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サロン会、老人会、小学校、保育園等の交流を通し、周辺情報や支援をして頂き、情報交換をし、安全な暮らしができる様に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望される主治医にかかり、日常の関わりの中で、体など些細な変化を見逃さない。体調変化はすぐ報告をする。	利用開始前からのかかりつけ医を継続受診しており、職員が通院支援している。受診には家族にも同伴してもらい、本人の体調や受診内容を共有している。協力医の往診もある。利用者に変化があった場合、職員は時系列で記録を取り、主治医に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医を希望される事が多いので、本人・家族の意見をよく聞き、通院介助の方法なども希望を聞き、安心して頂く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐ為にも主治医とよく相談し、早く退院できるように支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を踏まえ、主治医と職員が連携をとり、対応し得る最大のケアを行っている。	事業所は看取りに関する指針を作成しており、利用開始時に本人・家族へ説明している。家族の協力なしには看取りは行えないとの考えであるため、段階に応じて、主治医・家族・職員で話し合いを行っている。事業所は出来る限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が年1回の応急手当の実習、研修に参加し、ケースを想定しながらの勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	行政関係者、消防署の協力を得て、避難訓練、消防訓練など利用者も一緒に定期的に行っている。地域の協力体制も行っている。	年3回消防訓練を実施し、夜間想定や各ユニットごとの訓練、DVD視聴等形態を変え訓練している。運営推進会議時の訓練では、防災設備の業者も参加し、消火訓練や避難誘導のアドバイスを得ている。地域との連携も確認できる。但し、自然災害のマニュアルがなく、訓練実施、備蓄品の整備もこれからである。	運営推進会議でも議題としてあがっており、自然災害のマニュアル作成と訓練の実施が望まれる。また、非常時の備蓄品の整備にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のその人らしさを尊重し、本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけている。	利用者の羞恥心に配慮し、トイレ誘導時や失敗時の言葉掛けに、細心の注意を払っている。また、利用者のこだわりを大切にし、会話や行動は否定はしない支援に努めている。個人記録などは事務所で管理し、写真利用などの同意書も得ており、職員の守秘義務も周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と過ごす時間の中で、利用者の希望(食べたいメニュー・行きたい場所等)を聞いて、本人が決める場面を作る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、ドライブ、手作業など本人のやる気、体調に合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は特に身だしなみに気を配り、好みなどを最優先し、出来ない方には声かけをし、一緒に本人の気持ちにそった支援をする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に野菜の皮むきや配膳などして頂いている。ギョウザ、コロッケ、おはぎ作りなど、たいへん喜ばれている。	利用者の嗜好や旬の食材を利用した献立を各ユニットで検討し、調理し提供している。食材の買い物や下準備も手伝う利用者もあり、職員も一緒に会話を楽しみながら食している。一部介助や食事の早さで席順を検討したり、嚥下に合わせた盛り付けなど、利用者が出来る限り自立して食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスにも配慮し、体調にあわせキザミ食やミキサー食などにして対応している。水分は食事時以外にも約4～5回は摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に声かけをし、見守りをしながら、一緒に口腔ケアのお手伝いをしている。自力で出来ない方は声かけをし、歯みがきのお手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を利用し、食前や食後にもタイミングをみはからって一人ひとりにさりげなく声かけをし対応している。	ホームではトイレでの座位排泄を支援している。各利用者毎に排泄チェック表を作成し、職員は声掛けや時間誘導など、個別の支援方法を把握している。リハビリパンツから布パンツ使用などの軽減事例があり、常に職員は利用者が心地よく感じる排泄支援について検討し実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを記録し、便秘予防にも牛乳やヨーグルトやこまめに水分補給をして取り組んでいる。散歩なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に健康チェックを行い、その後一人ひとりの体調、希望、タイミングに合わせて、入浴を楽しんで入れる様に支援をしている。	週2、3日を目安に入浴を介助している。1対1で入浴を支援し、車椅子利用者も湯船に浸かれるよう介助している。シャワー浴やホットタオルを利用し、常に清潔を維持している。柚子湯で季節を感じたり、ゆっくり会話を楽しむなど入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつも清潔なシーツ、寝具、その季節にあったパジャマで居室内の灯りにも充分配慮し、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方の変更になった時などは特に全職員が連携をとり、その後の変化を注意深く観察する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ちまき作り、干し柿作り等、利用者の経験、知恵を引き出し、一人ひとりが楽しみながら参加出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やお墓参り(命日など)家族に声かけし、応援をして頂き、出掛けられる様に支援している。	天候や利用者の体調に応じ、ホーム周辺の散歩やドライブなど個別に外出を支援している。また、ホーム庭ではグランドゴルフや日光浴を楽しんでいる。職員は利用者の希望を取り入れながら、水族館や四季折々の景色、足湯など遠出を企画し、普段と違う外出をみんなで楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほしい物がある時は買い物支援を行い、自分で財布からお金を出して買入されている。少額でも所持金を持っている事により本人が安心したり、満足をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や地域の方と自由に話ができるように個別に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のフロアでは季節感を出せる飾りつけにしたり、一人が安心して居心地よく過ごせる工夫をし、ひざかけにも布にも名前を記載している。	共有のリビングには手作りのカレンダーや季節ごとの飾り付けがあり、家庭的な温かい空間となっている。職員が毎日、掃除を行い、快適な空間となるよう整理整頓に努めている。利用者がそれぞれに寛げるようソファやテーブルセットがあり、温度や湿度も職員が管理し、居心地のいい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは気の合った方同士で自由にそれぞれ楽しくお話をされたり、独りでテレビなど見ておられる方には、そばに寄り添って一緒にお話ができる空間作りに努める。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や使い慣れた品々、家具などを持って来て頂き、自宅とホームでのギャップを感じさせない工夫をしている。	利用者それぞれの居室には生活のリズムを忘れないよう時計が置いている。家具や家族の写真、テレビ等利用者の好みの物を持ち込み、個性的な居室となっている。毎日職員は掃除しており、利用者も一緒に掃除することもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に毎日、生活が送れるように障害になる物は置かないで広いスペースを確保したり、一人ひとりが迷わない様に目印を作っている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200620		
法人名	特定非営利活動法人 ASA陽		
事業所名	グループホームけやき荘(B棟)		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町小串郷1960		
自己評価作成日	平成26年11月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の食材をふんだんに取り入れている。(山菜、つわ、ふきのとう採りなど)</li> <li>・誕生会には家族を招待し、一緒にお祝いをする。</li> <li>・年2~3の日帰り小旅行、食事会(水族館、動物園、近隣の観光地など)</li> <li>・地域の小学校、保育園、老人会、施設等多方面からの慰問や交流がある。</li> </ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議でホームの理念を確認したり、話し合いながら意識づけをし、共有しながら実践につながるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などの参加も継続したつながりも行っており、慰問には保育園、演奏会、日舞、ダンス、劇等多方面からの協力を得ながら交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や地域の行事等の参加を通じ理解して頂いている。(老人会、サロン会、夏祭り、運動会、小学校からの交流会、保育園児の慰問など)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の中で各地区からの慰問、交流会を取り入れ、ホームの現状報告を含め、意見、アドバイスを頂きながら理解して頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政と常に推進会議の事や、認定更新についての相談、入所の申し込みについての話し合いを行っている。(地域包括センター、介護保険担当者など)		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の方が外出を望まれたり、その様子が見られる時は職員が安全面に気を配り、共に行動したり、気持ちを受け入れながら対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議等で虐待防止の勉強会を行ったり、不適切なケアがあった場合は話し合いを持ちながら改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議・研修会を通じて行政に相談したり、問題点などを説明して頂いたりしている。(推進会議、グループホーム協議会)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に入居前・入居時にホームの契約書パンフレットの全部の説明等を行い、理解・納得した上でホームへの入居をして頂いている。(重要事項・契約書)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方の面会、推進会議等の時に現状報告を行い、家族の方から意見要望等を聞くように対応し、ホームの行事・1日の流れも説明している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、勉強会を通じてホームの状況をスタッフに説明したり、意見・提案を聞く様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームの状況を常に理解して頂くように研修会、勉強会、会議を開催している。常に参加して頂く様、時間外の手当もつけている。(時には食事会をし、一人ひとりの悩みを聞いたりしている)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の悩み相談等は個別に食事会に誘い話を聞いたり、(仕事などの悩み)している。毎年、研修会には交代で参加している。(地域の研修会、勉強会、会議等)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム協議会・ケア勉強会に参加し、それぞれの事業所などから情報・状況を話し合ったり、意見交換をしながらサービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安を聴きとれるように、ゆっくりした時間や環境、寄りそった関係作りをしながら、入居後安心していただけるように対応し支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時には困っていることや苦勞してこられた様子など聴くことで、共有し家族に寄りそいながら信頼関係づくりに努めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が今何を困っているのか不安なのかを聴き、状況を確認しながら改善に向けた話し合いをしたり支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人生経験や生活の知恵など教わり共有しながら、そういった場面が多くもてるようにセッティングや声を掛けながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活の様子などを家族に折りにふれお話ししたり、面会時にはゆっくり家族との時間をもってもらうようにしている。誕生会や行事などにも参加していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、馴染みの美容室に出掛けたり、友人・知人等にも面会に来て頂き、これまでの関係を失うことがないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格等に配慮しながら孤立せず、入居者同士の関係が円滑になるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族の方にも相談があれば応じたり、ホームでの行事など協力して頂いたり、参加されたり継続したつながりが保たれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の会話や様子をみながら、本人の思いを知りえるように努め、意思表示が上手にできない方には、表情様子をみながら汲みとるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や価値観、個性など本人や家族などから情報を伝えていただけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、興味のあることに着目しながら生活の中で活力を感じてもらえるように工夫したり、できない方へは一緒に取り組めるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意向を聴き職員全員で意見交換やモニタリングカンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にバイタルチェック・食事・飲水・排泄・健康面や暮らしの様子等を記録し、全ての職員が確認できるようにし、日常の申し送りでも確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の気持ちや要望、体調をみながら臨機応変に、柔軟な支援やサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などに参加したり、ホームでの行事には地域の方々にも参加を呼びかけている。火災訓練などでは消防団他とも協働して実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を踏まえ、以前からのかかりつけ医師にかかり、受診を継続して行っており、急変時においても医師との連携ができるようお願いしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェックを毎日行い、食事・排泄・飲水等の記録や本人の表情、様子から異常の発見に努め、早期に対応できるように心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も面会に行き、治療の状況など病院関係者からの情報交換をしながら早期に退院ができるように相談したり関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化における内容について、あらかじめ説明等を行い早めの段階より本人や家族と話し合いをもちながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が応急手当の実習や研修に参加し、ケースを想定しながらの勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	行政機関、消防署の協力を得て、避難訓練、消防訓練など入居者も参加してもらい定期的に行っている。地域の方々への協力体制も得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の思いや人格を大切に考えながら言葉かけをしたり、環境作りをしてプライバシー保持に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との関係作りの中から、本人の趣味、嗜好、希望や関心など見極め本人が選びやすいように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは持っているが、本人の体調をみながらレクリエーションやドライブ、手作業など本人の希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を優先に考えて、出来ない方へは見守りや支援しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に入居者の意見を取り入れながら季節のメニュー（おはぎ・ちまき・干し柿等）など入居者と一緒に調理する楽しみを支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスに配慮し、体調や本人の能力に応じて、ミキサー食や刻み食で対応し、食事摂取量、飲水も記録しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に声かけをし、誘導や見まもりをしながら一緒に行ったり、できられない方へは口腔内の洗浄を行い嚥下障害による肺炎の予防に取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の能力にあわせ、声掛けや見守りを行い尿意のわからない方へは排泄チェック表をみながらさり気なく誘導し介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に繊維質の多い食材を使うようにしたり、水分補助もこまめに行いながら、散歩や体操、レクリエーションなど等も取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックを行い、本人の希望に応じて一人ひとり見守りながら、ゆっくりと入浴を楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促したり、疲れ具合では自由に休憩をとってもらっている。夕方からは穏やかなペースで過ごせるように配慮し、清潔な寝具で休んでいただくように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者別に薬の処方を整理し職員が確認できるようにしている。服薬は本人に手渡したり、介助にて服薬が完了するまで確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや興味のあることを見極めながら、仕事をお願いしたり、本人と相談しながら、季節毎の料理作りや庭仕事など支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って、散歩・ドライブ・足浴等外出の機会を作り、家族や地域の方々の協力を得ながら外出の機会を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望を聞いて買物する機会をもうけており、少額の所持金をおもちの方は自分で買物を楽しませている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や地域の方々・知人など自由に電話が出来るように支援したり、ちょっとしたお礼や近況報告のおり、家族との会話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方の居心地の良い場所作りや安心してくつろげるようにアットホームな飾りつけや作品や生花、写真など見やすい高さに置いたりして工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の好きな場所で新聞や本を読まれたり、テレビ視聴されたり、気の合う方同士は日向ぼっこや会話など楽しんでいただけるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れたタンスや置物等を準備してもらい、写真、生花などお好きな物を自由に飾っておられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方がわかりやすいように案内カード・表札などつけたり、安全面に気をつけた配置に工夫をしている。		